

国立研究開発法人  
国立国際医療研究センター病院

National Center for Global Health and Medicine  
http://www.ncgm.go.jp/

発行 連携医療ネット

住所 東京都新宿区戸山1-21-1

代表 TEL 03-3202-7181

FAX 03-3207-1038

地域医療連携室

直通 TEL 03-3202-8066

FAX 03-3202-1003



# 連携医療NEWS

## Vol.42 新年号

### 新年のごあいさつ

病院長

大西 真



新年明けましておめでとうございます。新年にあたり、皆様のご多幸とご健康をお祈り申し上げます。地域医療にご尽力されている皆様方には、日頃より大変お世話になり、誠にありがとうございます。本年も何卒宜しくお願い申し上げます。

当院は国立研究開発法人となつてからまもなく2年が経ちますが、国立研究開発法人では、研究成果の最大化が求められています。病院機能を活用した研究の成果を発信する使命を果たすためには、病院として十分な診療機能を発揮してこそ、最新の臨床研究活動を行うことが出来ると考えております。

そのミッションを実現するためにも、外科系やそれを支える麻酔科の診療体制の強化を図っております。泌尿器科診療科長として久米春喜医師を迎え、前立腺のダ・ヴィンチ手術を多数実施し、合併症もなく安全な手術がなされております。また、心臓血管外科診療科長として米国での手術経験が豊富な宝来哲也医師を迎え、高難易度の心臓手術も円滑に行っております。さらには、同時期に麻酔科診療科長として高松功医師を迎え、麻酔の体制を強化致しました。当院は、高齢者や様々な合併症を持つ方、感

#### 内容

- ・新年のごあいさつ . . . . . 1
- ・着任あいさつ . . . . . 2  
旬の味覚
- ・着任あいさつ . . . . . 3  
看護通信
- ・連携登録医のご紹介 . . . . . 4

染症や精神疾患を有する方の外科手術が多いことが特徴であり、このような特徴を生かした外科系の臨床研究もさらに発展させていく所存です。

従来の人間ドックを全面的にリニューアルし、新たな人間ドックセンターを設置致しました。受診した方々からはご好評を頂き、外国人の受診者も増加しております。疾病の早期発見や予防の研究にも展開させていきたいと思っております。

国際診療部も外国人患者診療のさらなる円滑化を進めております。外来患者や入院患者の約5~6%は外国人となっており、今後は国際臨床医学研究の展開につなげて参ります。

国内外の診療現場のニーズ、中小ものづくり企業製販企業を結び付け、迅速に現場に必要な医療機器を研究開発するプロジェクトを進めています。東京都医工連携HUB機構とも連携し、地域医療の現場に役立つ医療機器も開発したいと思っております。

地域医療連携室の徳原真医師、緩和ケア科の日野原千速医師が中心となり医療連携を進めていますが、地域医療構想を踏まえ、皆様と益々連携を深めて行きたいと思えます。

当院は高度医療の実践と臨床研究を通じて、国内外の皆様の疾病の克服と健康の増進への寄与の実現に向かって、邁進していく所存です。本年も、地域の医療関係者の皆様、患者の皆様のご支援・ご理解を何卒よろしくお願い申し上げます。

# 新任あいさつ

## 麻酔科診療科長

高松 功



私は2016年11月1日付で着任いたしました麻酔科の高松功と申します。主に手術室での麻酔管理を担当しております。安全で質の高い麻酔を常に目指して取り組んでまいります。宜しくお願いいたします。

私は防衛医科大学校出身で、卒業後は数年間自衛隊医官として勤務しました。私が所属していたのは航空自衛隊で、その際には基地医務室での診療、離島での勤務、国連平和維持活動への参加など貴重な経験をさせていただきました。苦しいこともありましたが、それを乗り越えてきた経験は現在までの勤務に生かされていると感じています。

自衛隊退官後は西埼玉中央病院、東京女子医科大学麻酔科、済生会川口総合病院、防衛医科大学校麻酔科、新久喜総合病院で勤務してまいりました。この間は臨床だけでなく教育・研究にも力を入れてきました。特に研究分野では麻酔薬が中枢神経に及ぼ

す影響について研究をしてきました。全身麻酔中に使用する麻酔薬は意識や記憶を強力に抑制します。麻酔薬が中枢神経にどのように影響するのか興味を持ち、研究を始めました。基礎研究では主に国立精神・神経医療研究センター神経研究所の併任研究員として麻酔薬が記憶の中枢である海馬でのシナプス伝達に及ぼす影響について電気生理学的研究をしてきました。特に麻酔薬プロポフォールやデクスメトミジンが海馬シナプス伝達に及ぼす影響について研究しました。臨床研究では麻酔中の脳波変化をとらえて麻酔深度を評価するモニターについて研究してきました。麻酔領域では次々に新しいモニターが開発されていますが、麻酔深度を正確に評価するモニターの重要性に興味を持ち、研究に取り組んできました。これらの研究や研究指導の経験も当センター勤務に生かせればと考えています。

今後も麻酔科では日々進歩する麻酔技術やモニターを積極的に取り入れ、麻酔管理の質をさらに高めたいと考えています。また、他科と連携を取りながら協調して診療にあたり、当センター病院でのより安全で質の高い周術期管理に麻酔科が中心となって貢献していきたいと考えています。

# 旬の味覚 ほうれん草

## 管理栄養士

細川 大輔



ほうれん草は年間を通して手に入りますが、おいしさも増す旬の季節は冬です。霜にあたって甘みが増すと言われています。

ほうれん草はとても栄養価が高い緑黄色野菜の代表です。特にカロチンやビタミンC、鉄分を多く含んでいます。カロチンは抗酸化作用があり、発ガン性物質の毒性を軽減して、がん予防に効果が期待できます。また動脈硬化を防ぐ作用もあると言われています。

またカロチンとビタミンCの相乗効果で、肌荒れの防止、かぜ予防にも有効です。そして鉄分をとること貧血の予防にもなります。

～ほうれん草のシチュー～

〇メニュー（4人分）

ほうれん草	1束(生で約400g)
鶏むね肉	1枚(250～300g)
人参	1本(約100g)
じゃがいも	2個(約200g)
バター	大さじ1(約12g)
牛乳	200ml
シチュールー	約80g

(とろみ加減は、お好みで調節して下さい)

(一人当たり エネルギー：314kcal 塩分：0.8g)



〇作り方

1. じゃが芋を一口大に、人参をくし型切に、鶏むね肉を食べやすいサイズに切り分けます。
2. ほうれん草をゆでておきます。茎から沸騰させた鍋に入れ、15秒ほど茹でます。冷水にさらした後、水気をよく絞ります。
3. 鍋にバターを敷き、鶏むね肉の表面を焼いていきます。
4. じゃがいも、人参の順番で加え、全体にバターが絡まるように炒めていきます。
5. 鍋に水を入れ、具材に火が通るまで煮込みます。
6. シチュールーを加えさらに煮込んでいきます。
7. 牛乳を入れるとコクが増しさらにおいしくなります。
8. 食べやすい大きさに切り分けたほうれん草をのせて完成です。

# 新任 あいさつ

## 心臓血管外科診療科長

宝来 哲也



2016年11月1日付で国立国際医療研究センター心臓血管外科に着任いたしました。これまで、日本およびアメリカの施設で心臓外科の臨床と指導にスタッフとして携わり、弁膜症手術、冠動脈バイパス術等の標準手術から複雑合併心臓手術、低侵襲心臓手術や重症心不全外科まで精通しております。この度、新チームとして診療をスタートいたしました。心臓手術の経験豊富な外科医、麻酔科医、臨床工学士、看護師が、最高の心臓血管外科医療を提供するという共通の目的を持っております。

胸骨を切らない低侵襲心臓手術（MICS）に関しては、私自身これまでも多くの手術経験があり、この度当院にても新たに導入し、積極的に行っております。この手術は5-6cmの右小開胸で、僧帽弁膜症、三尖弁逆流、心房中隔欠損症の治療が可能

で、傷の痛み軽減、最小限の輸血、また、術後1週間程度の早期の退院、社会復帰を実現します。狭い視野で行う技術を要する手術ですが、手術器具や技術の発展で、胸骨を大きく切る手術と同等のクオリティと安全性が確保できると考えられています。また、MICSは、患者様の体形や血管の性状により、向き不向きがありますので、適応には注意し、無理のない安全な術式を選択するように心がけております。

今後は医師会の先生方との連携を深く持たせていただき、地域の方々に最善の医療、最先端の世界標準の医療を提供して参ります。大動脈解離、不安定狭心症等、緊急を要する疾患や、ご高齢の方や石灰化病変の心臓手術、以前に心臓手術を受けられた方の再手術などハイリスク症例も積極的に対応してまいります。また、ナショナルセンターの力を活かし、心臓以外の併存疾患を有する患者様にも手術を行うことが可能です。心臓血管外科診療で先生方のお役に立てるよう、チーム一丸となり努力して参りますので、国立国際医療研究センター心臓血管外科をよろしく願いたします。



## 看護通信

### 糖尿病週間イベントを行いました！

2016年11月14日～18日は糖尿病週間でした。当院でも血糖測定や各種相談ができる測定・相談イベントや、市民公開講座を開催しました。講座、イベントともに200名近い参加があり、糖尿病について知って頂くよい機会となりました。今年の注目はセブンイレブンのカロリーを抑えたヘルシー弁当の共同開発でしたが、今後は患者さんだけでなく、一般の多くの世代の方々が糖尿病や健康を意識できる機会を作ることが大切だと実感いたしました。



# 連携登録医のご紹介

## 菊池医院

院長 菊池 俊之 先生

診療科 外科・胃腸科・内科・肛門科  
 住所 新宿区神楽坂6-25  
 電話 03-3269-1011  
 F A X 03-3269-8767  
 診療時間 9:00~12:30  
 15:00~18:30  
 休診日 水曜・土曜午後・日曜・祝日  
 交通 東西線 神楽坂駅 徒歩1分



当院は平成5年に神楽坂に開業して約24年が経過しました。開業直前まで千葉大学第二外科に勤務しており専門馬鹿でしたので、開業直後は消化器疾患、肛門疾患、乳腺疾患、外傷、小手術を主に診ることしかできませんでした。その後少しずつ色々な患者さんが見えるたびにその患者さんの病気を勉強しながら高血圧・糖尿病・循環器疾患・脳神経疾患や呼吸器疾患など様々な内科疾患を何とかプライマリーケア医として診れるようになりました。この間自分の判断に自信がない場合は必ず大病院の専門の先生方にご紹介して診断や治療法を仰ぎ、病診連携を通じてその返信から多くのことを学ばせて頂きました。また勤務医の先生方のご講演も非常に勉強になりましたし、講演の後の懇親会でお話しすることで顔の見える連携が可能となりました。病院に紹介する時に先生方個人名でお顔を目に浮かべながら安心してご紹介させていただくことができるようになりました。

以前はお亡くなりになられた赤塚先生に国立国際医療研究センターの先生方と医師会員との病診連携の際パイプ役として活躍して頂き大変お世話になりました。今は徳原先生がパイプ役を務めて下さり、先般も新宿区医師会外科医会の再開第1回目の講演会を医療センターの会議室で開催させていただき、外科診療科長の矢野先生にご講演頂きました。また橋本副院長を始め多くの外科の先生方にもご出席して頂き大盛況でした。病診連携の一環としても大成功でした。

これからも色々な科の先生方とお知り合いとなり顔の見える病診連携をして患者さんに喜んでいただきたいと考えておりますのでよろしくお願ひ致します。



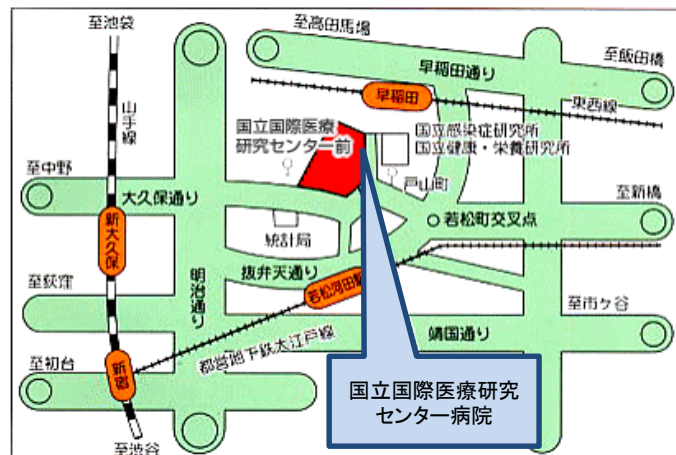
外来診療時間 8:30~17:15  
 ・初診受付 紹介状が無い場合 8:30~11:00  
 紹介状が有る場合 8:30~14:00

ただし、形成外科、産婦人科、神経内科、整形外科、精神科、リハビリテーション科の6科および結核(疑いも含む)については「11時までの受付」となっています。

・休診日 土・日・祝日・年末年始

### アクセス

- ・都営地下鉄 大江戸線「若松河田駅」より徒歩5分
- ・東京メトロ 東西線「早稲田駅」2番出口より徒歩15分
- ・JR大久保駅又は新大久保駅より都営バス「新橋」行 国立国際医療研究センター前 下車
- ・新宿駅西口より都営バス「医療センター経由女子医大」行 国立国際医療研究センター前 下車



国立研究開発法人

国立国際医療研究センター病院

TEL 03-3202-7181 FAX 03-3207-1038 ホームページ <http://www.ncgm.go.jp/>

〒162-8655

東京都新宿区戸山1-21-1

